

議会改革推進研究会行政視察報告

議会改革推進研究会会長 阿 部 真 一

- 【視察日程】 令和7年1月22日（木）
- 【視察委員】 阿 部 真 一 会 長、重松 康宏 副会長、森 裕二 議 員
日名子 敦子 副議長、美馬 恭子 議 員、森山 義治 議 員、
吉富 英三郎 議 員
- 【視 察 地】 島根県浜田市議会
- 【視察対応者】 川神 裕司 副議長
牛尾 あきら 議会改革推進特別委員会委員長
下間 麻利江 議会事務局長
小寺 一平 議会事務局主任主事

【調 査 事 項】

1 議会改革の取組について ※浜田市議会説明については、別添資料参照 (議会改革に関連する常任委員会活動の活性化)

(1) 浜田市議会概要

人 口 50,573 人（令和5年1月末）

面 積 690.64 k m² ※別府市の約 5.5 倍

議員定数 22 名（現員：21 名）

※令和2年9月定数条例一部改正、令和3年10月以降、議員定数 24→22 名

浜田市議会の議会改革度調査 2023 の結果は、全 1788 議会の 1562 議会回答中、

・総合ランキング 13 位（昨年 37 位） 【別府市 123 位】

※中国、四国、九州地方の中で、2 年連続 1 位

分野別順位は、それぞれ次のとおり。

・「情報共有」 7 位（昨年 27 位） 【別府市 263 位】

＜会議の資料の事前公開、議案賛否及び反対理由の公開など＞

・「住民参画」 20 位（昨年 98 位） 【別府市 126 位】

＜大学生や関係団体との意見交換会、議会報告会、はまだ市民一日議会実施＞

・「機能強化」 24 位（昨年 42 位） 【別府市 127 位】

＜議会 BCP 策定、オンライン委員会の開催、自由討議の実施など＞

(2) 事前質問事項回答

① 議会改革に関連する常任委員会活動の活性化について

○委員会の活動計画等

- ・各常任委員会委員の任期は何年ですか。
→ 5つの常任委員会があり、いずれも2年。
- ・常任委員会の活動は、年間計画を定めて行っていますか。
→ 委員会によって取組に差がある部分があり、取り組んでいるところもある。
- ・計画を定めている場合、スケジュールは任期全体もしくは1年単位のどちらで定めていますか。
→ それぞれの委員会の中で、取り組むべき事項の洗い出しからはじめて、所管事務調査、視察、意見交換等を経て、最終的にまとめたものを政策提言するといった流れを2年の任期の中で行っている。
- ・計画を定めていない場合、閉会中の委員会活動をどのような形で、委員会視察、市民との意見交換、調査研究テーマ、所管事務調査実施、執行部への提言・要望等のスケジュールを組み立てていますか。
→ 上記のとおり、それぞれの委員会で対応している。

② 委員会の調査活動報告

○行政視察報告（行政視察レポート）の実施

- ・委員会単位で行政視察レポートを作成することとした経緯についてご教示願います。
→ 基本条例の規定に行政視察を行ったときは、その目的・成果、費用を公表し、政策立案等に努めるものという条文があることから、視察先で得た知見を議会全体で共有するとともに執行部や市民にも共有して、市民への説明責任を果たすことを目的に導入した。
- ・行政視察レポートの作成は、委員会視察後、閉会中に委員会を開催し、レポート内容を協議作成されているという手順でしょうか。
→ ①行政課題の抽出、市民意見の聴取、②課題設定、③行政視察→考察→政策立案・提言の順。浜田市議会は通年議会制を採用しており、いつでも委員会開会可能。
- ・行政視察レポートを実施以降、市民の反応等、以前と変わった点がありましたか。
→ 導入により、レポート作成手順を変えたことで、視察に対する議員の意識改革につながったと思っている。執行部へ情報共有するようになったという点も変わった。図や写真をふんだんに取り入れて見やすい報告書となった。

③ 委員会から執行部への提言・要望

- ・委員会から執行部への提言・要望は、毎年すべての常任委員会が行っていますか。
→ 毎年というところもあるが、委員会による。
- ・提言・要望は、執行部の回答を求めていますか。

- 回答をするよう明言をしていないが、執行部のほうで担当課が取組を検討して、所管委員会へ報告するといった流れがあると認識。
- ・回答を求めている場合、提言・要望後の実現有無などの状況について、所管常任委員会や一般質問等を通じて確認を行っていますか。
- 一般質問などで、それぞれの委員会の委員が執行部に投げかけしているといったことはある。

④ 委員会代表質問

- ・委員会代表質問を導入されていますが、通常的一般質問との違いをご教示願います。
- 議員個人とする質問ではなく、委員会の総意で行う質問であるため、執行部へ訴えかける力が強いと認識。
- ・委員会代表質問と通常的一般質問との間で、執行部の答弁や質問後の対応の違い等を感じる点がありますか。
- 議会としては委員会全員の総意による質問なので訴求力があると考えている。
- ・委員会代表質問を行う場合、通常的一般質問との質問の重複等が生じないよう調整や議会申し合わせを行っていることがありますか。
- 委員会代表質問実施要領を定めている。委員会代表質問を行う委員会に所属する議員は、一般質問と代表質問が重複しない質問内容でなければならない等。

⑤ その他の取組について

- 「はまだ市民一日議会」の開催
 - ・「はまだ市民一日議会」の取組の特徴、また開催に至った経緯をご教示願います。
 - もともとは愛知県犬山市議会へ視察した内容を参考に、市民が議会に来ていただき発言してもらうというものを導入。
- 主権者教育の取組について力を入れていることがありましたらご教示願います。
 - 島根県立大学との連携において、大学生との共同研究で意見交換や大学生を講師に議員へ講習してもらう SNS 講習会、議員インターンシップの受入れ等
- 今後の議会改革の取組について
 - ・既存の取組で改善を図ろうとしていること、新たに力を入れて着手しようとしている取組等がございましたら、差し支えない範囲で結構ですのでご教示願います。
 - 任期である令和 7 年 10 月までに、政策討論の在り方、建築物検討委員会、文書質問、委員会政策提言後の検証方法、議会による AI・ChatGPT の活用、議会改革の取組の検証を検討

(3) 質疑応答

(別府市質問)

委員会代表質問を委員会の機能として導入してきたというのは、どのような経緯、その入口の段階でのお話を聞かせていただければ。

(浜田市回答)

当時、会派代表質問が形骸化してしまっており課題となっている中で、これどうしていくのかというのを侃侃諤諤で議論をしていました。国会とかを見てそれに倣うと、市長の施政方針を見て順番に質問していく、各会派がそれに合わせて質問をしていくのですが、市民から見ると同じような質問のやりとりで変化がなく面白みもない、さらに総括質問、総括答弁の形式で分かりにくいということでいろいろと検討する中、それなら質問が被らないようにということで事前調整するような委員会も作ってやってみてもうまいかない、そもそも代表質問が必要なのかという声もあったりするなど、任期を超えて議論をしていった結果、代表質問をするのもまとめる方も大変ということで、会派代表質問が意味がないのではないかという議会全体の雰囲気になってきており、その時、委員会代表質問をやれと言われた委員会があり、それならということで委員会の総意となる質問を本会議で取り入れたというのがきっかけです。

合わせて委員会代表質問を導入しようという流れになってきたところで、基本条例も改正をして議員は本会議で所管事務調査についての質問をすることができるということを盛り込んだ改正をしたという経緯があります。

浜田市議会としては、何か新しいことをはじめて、継続して続けていこうというときには条例にまで反映させるべきではないかなということは思っています。

(別府市質問)

議会の視察の前に市民から意見を聴取するところがあったのですが、そこはどんな形で課題解決に向けたご意見をいただいているのでしょうか。

(浜田市回答)

委員会で、それぞれテーマを決めて所管事務調査をしていくんですけど、例えば福祉環境とかでしたら医療センターや介護施設に行ったり、保育園へ行ったりして、施設の関係者と意見を交換をする等、どちらかというターゲットを決めてから関係者の方に意見を聞きに行くという議会側からの活動が本当にこの何年間ですごく盛んになっていると感じます。

<別府市感想>

別府市議会も視察に合わせてではないですが、市民と対話集会というものを毎年行ってまして、各常任委員会が課題解決に向けて同じようにいろいろな団体の方と協議をするというのがありますので、今のお話を聞いてそうした意見交換をもとに先進事例の視察を行

い、さらに市の課題解決へ向けていくというような流れにすればよいのだなということで、勉強になりました。

【浜田市説明】

私どもは、行政視察も所管事務調査の一環だと思っており、やはり何かテーマを決めて行く時に市民の意見を聞いて、その上で先進地へ行って、また新しい情報を得るというような位置づけで、本当に今の委員会はすごく積極的に活動が行われているなど事務局から見て感じます。

【浜田市説明】

私は福祉環境委員会に所属をしておりますが、先ほどから出てるように保育園や保健所、医療センターそれから、その前のテーマのときは障がい者施設など、様々なところへ委員会の中で小チームを組んで聴き取りをしていて、最終的には委員会内で共通課題や個別課題を洗い出す。最終的には委員会が提言を出すんですが、それは執行部に向けて行う場合もありますし、市民や団体からの意見ということをしつかりと聴き取って、議会としては課題解決に向けた先進事例はあるのかということで視察先を選んでおり、所管事務調査→市民・関係者聴き取り→視察先検討・視察実施→執行部等へ提言、情報共有という1つのパッケージという流れは気を付けてやっています。

【浜田市説明】

私は産業建設委員会ですけど、委員会の年度初めにまずテーマを決めて、例えば今、建設業が大変だということであれば、建設業協会の方と意見交換するとか、大規模農業傾斜の代表を集めて意見交換するとかです。

【浜田市説明】

今年あの昨年度始めに今年今年でこれどうしようかっていうことでそれぞれテーマを決めて例えばその建設業協会大変だとじゃ建設業協会の内容者と意見交換するとか大規模農業経営者の代表を集めて意見交換するとかあと

【浜田市説明】

直近の議会報告会では28か所で行いました。28か所を議員3人のグループに分けて全部対応しています。議会報告会には事務局職員は行きませんので、議員が全てやるということです。

そうすると今まで行ったことないところで新しい意見が出てくる、そうするとその意見は吸い上げなきゃいけないということで、最終的には委員会で取り上げるかあげないか、それとも個々の議員の一般質問とするかしないかといった選択肢はいろいろあるのですが、少なくとも選択肢となる情報が増えるということになります。

(別府市質問)

委員会代表質問の件ですが、最終的にはその委員会に所属される方が意思統一を図って同じ思いでということで質問されるということなんですが、なかなかその目指す方向というのは同じだとしても、質問の角度とか考え方がそれぞれの所属会派で違うこともあるかと思うんですが、そのあたりの意思統一というのはできやすいのかそれとも侃侃諤諤の議論をした結果、意思統一が図れなかったというようなこともあるのでしょうか。

(浜田市回答)

私、産業建設委員なんですが、建設業が困っているということで、5つの地区があるんですけど、合併前の町村分けて会長を読んで聴き取りをしながら議会全体で委員長が代表質問で取り上げました。

大きい部分の共通項は委員会代表質問で通告できるんですけど、おっしゃるように質問も多少温度差が出るので質問をまとめる際になるべく特定の方に偏りすぎないような質問立てにしようといった申し合わせをやっていますが、完全に絞り込むことはできませんので、そのあたりは大らかに課題解決に向けた結果を出すための質問という認識でうちの委員会ではやっています。

例えば障がい者雇用の件に関しても、委員会に7名いたらそれぞれの角度があり、事業者側の思いとか障がい者を抱えているご家庭の思いとか、双方の間をつなぐ行政やハローワークの立場の問題とかいろいろあります。だからそういうところはしっかりと意見を聴きながらテーブルに上げて、この課題に対してどうなのかと1個1個仕分けをして意見を出し尽くした上で、その中の最大公約数的なものをもって質問しますので、先ほどもありましたように非常に深い入ったところへ行くんじゃないかと、ある程度それをまずは第1段階で解決するための質問のところから入っていくということであれば特に問題はないのではないかと思います。

理想型は委員長が代表質問で大所高所から行って、所管の委員はそこからさらに細かい深掘りをしていくという2段階でやるという格好でやるとそうでもないんじゃないかと思います。それでもうちは代表質問した一般質問もしますので何でもありです。

(別府市質問)

やはり問題は、政策提言ができるかどうかだとは思いますが。先ほどからあの説明を聞いててやっぱさすがだなと思ったんですけども、これは地域性というか風土があるのか分かりませんが、別府市議会でも何人かに分かれて市民と意見交換をするんですけど、出てくる意見のほとんどがあれをしてくれ、これをしてくれ、補助金ください、お金くださいといったものばかりで、自分たちで最初の1回目のお金は行政から仮に出たとしても、それが一旦回り出したからには自分たち一生懸命頑張ってやっていきますよっていうようなものが見えないんですよ。大体別府はもう今までずっと何十年も見てきてるんですけど、何かこうお湯につかったままというか、そういうものが見えるんです。

それで例えば議会から1つのこととして、執行部側に話をしても執行部が要は市長がそれを取り上げてするかしないかで、結局は政策の実現ができるかできないかっていうことになるわけです。その時に、別府の場合は特にそうかもしれないが、議員が言った政策提言よりも市民が言った方をどちらかというところ取り上げやすいというか、私がずっと見てるとなぜそうなるのかなと思っていますと、議員が言って市が、執行部がそれをしたっていうとなんか市長の手柄にならないというか、そういう意味で言うと当然市長も市民との対話集会みたいなことをやってますので、そういう中で出てきた言葉の方がそれを市長が自ら取り上げてやりましたっていうと評価が高くなるような形になるということなことは浜田市のほうではないのか知りたいところです。

(浜田市回答)

別府市の場合は、公債費比率が3.5%、将来負担比率が0ですから財政的には潤沢というか余裕があるということではないでしょうか。そこは浜田市は平成25年には全国ワースト5位になったということで、そこからのスタートというのがあります。

逆に言えば、現行予算で比較すると別府市が600億弱、一方浜田市は400億弱、人口は別府が11万ちょっとで浜田が5万弱ということは、市民1人あたりの予算枠は浜田は結構大きいと。

それは何をやっているかといえば、市長も予算を確保してきて、議会も市長が暴走しないようにと声を上げてうまく噛み合っているところがあるかもしれません。

伝統文化の石見神楽についても神楽議連に全員入っていますが、この共同資料館の建て替えの話がある中では、一定の緊張感がないとなかなかそういう議論も難しい面があったりするのではないかと。

<別府市感想>

別府市も決して財政が豊かということではなく、よい起債を活用した事業とかが多く、自主財源を出さずに済んでたという部分があり、それを歴代の市長がやってきたことなんですけど、私は出戻りの議員なので久しぶりに市議会に戻ってきたんですけど、市長の姿が目立ちすぎて議員がみんなおとなしいんじゃないかというのが気になっております。

浜田市のように議会も議員が個人的にもっと勉強をしっかりしないとダメだなという風には思ってます。

【浜田市説明】

浜田市は別府市より熱心というか閉会中の活動、浜田市は通年議会を採用しているというのがありますが、私も30年議員をやってますけど、昔は田舎特有のゆったり感はあったんですよ。これは本会議が終わったら、当時は通年制でないので、次の議会や常任委員会までは特別なことがない限りはバタバタしていなかった。しかしながら今は通年制なので会議や所管事務調査があったり、先ほど来、説明をしているように調査事項をどんどんやっていかないとという感じで、昔に比べるとアクティブで背負うものが大きくなったなという

気持ちにはしています。

私は、市長選1度出て、今の市長に負けましたので出戻りです。やっぱり合併前はちょっと緩やかだったですん。合併してからは議長の下、何か取組をしなければならないということでどうせやるんだったら全国でもやってないことを1番にやろうということを結構目指していた時期もあり、その辺からスイッチが入ったというか、走り始めたのが早かったから、たまたまここまで来たのかなと思ってます。

(別府市質問)

先ほど議会報告会は議員さんだけでやっているというお話でしたが、事務局と議員さんが何かやりたいという時に、事務局との距離感というかフォローのあり方はどういう風な関係性を保ちながらやっているのでしょうか。

別府市議会でも、事務局が全部おぜん立てをして作ってくれるような部分があるので。

(浜田市回答)

以前はたしかに事務局がお茶くみやコーヒーを出したり、お弁当の注文といったこともやっていましたが、現在は全部議員が自分でやっています。やはり事務局は事務局の仕事をやってほしいということで、自分の湯のみがあれば全部自分でやっており、去年くらいからは全くそういうものがなくなっています。

そして、議会報告会も当初は、会場の鍵開けとか日程調整なども事務局が携わってた部分ですが、ここ数年で全て議員さん方が行っています。私もちょっと前に事務局におり、戻ってきたのですがすごく変わった。平成19年くらいの時と今では事務局の仕事もそうですが議員さん方が自らいろんなことをされるというところが大きく変わったなと思ってます。

(別府市質問)

3つほど質問したいのですが。1つ目は、委員会代表質問と一般質問でダブるところが出てくると思うんですが、そうしたときはどっちが取り下げるのか、代表質問をした方と別に委員会で一般質問をする方はどこで調整しているのかという点。

2つ目は、はまだ市民1日議会という取組がありますが、この中で応募者多数の場合は抽選とありますが、抽選というのがこれまであったのかという点。

3つ目は、私は交通部門でずっと質問をしているのですが、昨年4月にライドシェアが地域公共交通活性化再生法の改正で、その地域の公共交通活性化協議会で決定すれば議案にも出てこないまま事業となってしまう。その関連予算が5,000万円というのがあったんですが、この公共ライドシェアを推進するのに予算は議決しているがその内容がはっきりしないまま物事が進む、議会に議案として諮らなくても予算があるのでその中身は協議会で決定してしまえば、議会から意見をする場がないという状態が起っています。

当初予算で議決した後にさらに6月、9月の補正予算で違う事業で何か出てくれば議会としても意見を出せますがそういうものがない場合に今まで自由討議等で取り上げたことがあったかないかという点。

(浜田市回答)

1点目の質問が被るというお話ですが、浜田市では現行で言えば一切「ない」です。北海道あたりでは調整会議といったものがあり、うちも1回そういうことをやろうという話もあったんですが。委員会代表質問については、まず委員会代表質問が優先です。委員会代表質問があって通告するのでテーマはダブりますが調整はしません。委員がそれぞれの見地で質問をする、仮に質問が被ってても中身が全て被るということはないかと。

また、「委員会代表質問を行う委員会に所属する議員が個人一般質問の通告を行う場合は、所属する委員会の代表質問と重複しないような質問内容でなければならない」と決めていますので基本的にはないと。

2点目はまだ1日市民議会は、過去4回やっていますけど、第1回目は定員10名のところ応募者18名ありましたが、まだ1回目ということで今後継続するかもわからないということで応募者全員にやっていただきました。2回目以降はこの行事を継続するというところで10人の枠で抽選をしています。第4回目は11人の申し込みでしたが広報広聴委員会で協議した結果、11人全員に発言いただいたという状況です。

3点目は、浜田市では予算決算常任委員会で委員長除く全員が議論をやりますから、今言われたようなお話で、例えばこの1億の予算があり、とりあえず1億を認めていただいて中身はこれからというような上げ方ではないです。もしそうなった時には、やはり予算決算常任委員会で委員からこんないい加減な上げ方があるかと言ってやっぱり揉めるんじゃないですかね。

ですからそれはどこかの補正でちゃんと新規事業で上がってくるのを議運で説明してもらって予算委員会にかけて、そこでやるということになると思います。

お話の内容は、具体的に法律や条例等がどうなっているのか分かりませんが、うちの議会ではなかなかそうですかというわけにはいかないと思います。予算ですから予算常任委員会にかけて徹底してやるので、そこを通過しないと極論表決のときに否決となりますから。

予算決算常任委員会ってのは非常に厳しい委員会ですから、紛糾するときはそれこそ夜の7時8時、最近はないですけど9時、10時になったりすることもあります。

(別府市質問)

別府市では、市長の発信力が強く、少し議会が置き去りになっている部分、議会の権能、強さをしっかりと保たないといけないというのは、例えば乱暴な提案があったときに修正動議をかけるとかそういったことについてはいかがですか。

(浜田市回答)

これまでに執行部が議案の撤回をした例というのは、私が3期目ですが3回くらいあります。議会審議、委員会審議で提案した雰囲気がよくない、反対になるのではといった報道も出てそれで撤回、極端な例では、午前中に提案をして午後から撤回といったこともあります。

す。そこは執行部が自発的に察して行っているわけですが、おかしいことはおかしいと言える議会でなければ議会の存在価値はないでしょうし、我々も市民から言われるのでそういう形をとるということです。

修正動議という例もあるんですけど、その他では付帯決議を付ける例が最近多いです。その決議の効力がどこまで及ぶかという点は別ですが、少なくとも議会の意思表示という点においてということです。その後の検証というところも必要なのですが。

一方、市長も議会の追及に対して、反問権や反論権の行使を行っています。

(4) 視察の成果（視察参加者の考察）

◆ 阿部 真一 会長

議会改革が進んだ要因として、平成 25 年には財政指標のランキングが全国ワースト 5 位になったということがスタートである。議員はもちろん、議会や委員会として市民への責務と反省に立ち、市民の意見や見解を聞く広報広聴の強化・各常任委員会など委員会活動の所管事務調査→市民・関係者聴き取り→視察先検討・視察実施→執行部等を行い提言、情報共有に結びつけて多くの政策の具現化している。

以下個々の事案について考察する。

①『委員会代表者質問』について

- ・委員会として所管課題の委員の共有・調査研究が通年（通年議会）で行われている。
- ・委員会として市民や各種団体との意見交換を 20 回以上行う。
- ・代表者質問も意見交換・調査研究・視察所管事務調査を行い、委員と協議の上代表者質問を行う。
- ・委員会として調査研究を行なった上で、執行部に対し提言を行っている。

➡政策の具現化

②広報広聴機能の強化

- ・地域、各種団体への意見交換を多く行う。
- ・はまだ一日議会を行い議会への関心を向上させる。
- ・過去 8 件の案件を政策の具現化。
- ・市内の県立大学と連携し主権者教育を行なっている。

③議会全体

- ・議員が問題点の共通共有が図られている
- ・積極的に条例の改定を行い運営の継続化に努めている。

『総括考察』

多くの改革を行っているが議員の個人的見解でなく、議会全体として進めていることが確認できた。

また、委員会活動と広報広聴機能を強化することで、執行部に対して具体的に政策の実現に議会が強く関与できている。

その根底には『基本条例での明確化』『通年議会』『委員会での所管課題の共有』『視察意見交換を通した調査研究』がしっかり行われていることが一番の要因であるとする。

別府市議会としても対話集会や委員会視察、所管事務調査など実際には行なっているが、形骸化している取り組みもあり、今後常任委員会・議員運営委員会・議会改革推進委員会などで協議し、議会基本条例や各取り組みの実施要項を見直し、改定を行うべきところは早急に見直すべきである。

◆ 重松 康宏 副会長

浜田市が委員会活動活性化の取り組みの1つとしておこなっている委員会代表質問の導入については、常任委員会の専門的視点に立った積極的な所管事務調査や政策立案、政策提言に結びつくものとして、大変有効であるとする。

また、委員会視察レポートについては、視察先で得た知見等を視察に行った議員だけが活用するのではなく、全員協議会で報告、また執行部とも共有することで、政策に反映することが出来、市民への説明責任を果たすことにもつながる為、すばらしい取り組みであると思う。別府市においても、この様な先進的な取り組みを参考にしながら、市民福祉の向上につながるよう努力していきたい。

◆ 森 裕二 議員

先ず着いた早々に石見神楽での歓迎のおもてなしに驚くとともに感激した。別府市議会もこういう所からやっていかなければと感じた。

情報共有に優れ、全ての情報を積極的に情報公開していること、議案の内容も事前に公開していることに驚いた。

行政視察レポートは文字だけでなく写真を使い分かりやすく、議員間でも共有し情報公開することで市民への説明責任を果たす等していた。

委員会活動が活発であり、年間計画を立てたり、取組むべき事項を事前に立てたりすることで、テーマに沿った視察や意見交換を行い、政策提言にまでつなげる流れができていた。

主権者教育の取組として島根県立大学と連携しており、議会見学や共同研究を行っており、学生から SNS を学んだり、学生個人とのつながりだけでなく、ゼミと連携することで継続的な活動ができていた。

◆ 日名子 敦子 副議長

本市議会は市民に開かれた市民に寄り添える議会を目指している。今回は、さらなる取り組みの充実を目指して議会改革に先進的な浜田市議会を視察した。

まずは「議会だより」フルカラーでとても見やすい。本市議会も見やすい、読

みやすい、市民に読んでもらえる議会だよりを目指す検討が必要ではないか。

また、議会だよりが発行されない月にウェブ版、「はまだ議会だよりMINI」を発行しており、切れ目ない広報活動をしている。

議会ホームページにスケジュールが掲載されており、常任委員会等、ほぼ全ての会議の日程を開示しており、会議後は会議名をクリックすることで会議録も閲覧可能で本市議会も公開している部分もあるが、使い方の面からとても参考になった。

議会図書室は市立図書館と連携し、活用している。本市の新図書館開館に合わせ、本市議会も取り組めるのではないかな。

行政視察においては、市民意見を聴取して先進地を訪問し、行政視察レポートを作成。レポートは全協で報告しており、議員全員で内容を共有、市民にも公開している。

「はまだ市民一日議会」を開会、幅広い年齢層から様々な意見を聴取しており、市政に反映されることもある。

本市議会はそれに変わるものではなく、今後検討しても良いのではないかな。

学生との連携においては市が大学と協定を交わしているため、議会とも連携をとっている。本市議会もモニター等募集に苦慮していることもあり、新たに協定を交わすことも良いのではないかな。

傍聴規則改正など、新しいことを決めたらすぐに条例も見直している。

様々な取り組みが参考になり、有意義な視察となった。予算が発生せず取り組める内容もあり、まずは検討していきたい。

◆ 美馬 恭子 議員

・お迎えの石見神楽には感動しました。議員と事務局員の方がされていると言うことを聞いて浜田市を本当に愛されているのだと感じました。

・浜田市民一日議会に開催については、市民からの様々な意見を聞くことにより政策にも反映できると思うし、市民の議会への関心も広がるのではないかなと思う。別府でも是非実施できればと思う。

・常任委員会活動の活性化として、任期の単位で検討して計画を立てることは常任委員会として視察先を決定する場合にも有効かと。視察に関しては常任委員会での議論も必要だと考える。他の市でも任期内の計画を立て常任委員会を実施されていると聞く。議案の割り振りだけではなく、委員会としてのその期間に目指す目標や目途を持って動くことで議員の力量や学びが深まるのではないかなと思う。

・常任委員会からかの一般質問に関してはすぐには難しいかもしれないが、議論を重ねることは大切。党派を超えてまとまることも、地方自治体としては重要と思われる。

・市長と議会の二代表制の意味を再認識。議案質疑に関してもう少し深く議論できることが必要だと思う。そのためにも、議員間の議論が必要ではないかなと思う。

- ・議会通年制に関しても学習してみたい。
- ・議員としての姿勢の違いを感じた。
- ・いろんな面でまだまだ保守的な別府市議会。市民目線で考えて行くことが必要だと再認識。見た目や発信方法を改革しても中身をしっかり改革していくことが必要。議員1人1人の自覚向上のためにも今後も委員会として継続していくことは大切だと思う。

◆ 森山 義治 議員

浜田市は石見神楽を支える神楽産業発祥の地である事から、浜田市議会を訪問した途端、市議会議員自らが笛や小太鼓を交えて神楽を舞いながら歓迎して頂いた事にまずは感動した。別府市もいつの日かこのような歓迎が出来たら良いと思った。

議会改革は浜田市議会は2023年議会改革度調査で全国13位(別府市は123位)と議会改革が進んでいた。その内容の中で常任委員会代表質問やオンライン会議、又、政策提言と条例の制定、はまだ市民一日議会など、その背景や流れについて説明を受けながら質問、答弁を交えて学習させていただいた。

直近では事業継続計画(BCP)の見直し、議会図書室の活用。請願・陳情のオンライン提出などがあり、すべての議会機能について別府市議会に取り入れるのは時間がかかるかもしれないが、政策討論を経ての政策提言等は取り入れていくことが必要ではないかと感じた。今後は浜田市議会の議会機能について会派内でも議論してみようと思う。

◆ 吉富 英三郎 議員

年4回の「はまだ議会便り」、年8回の「はまだ議会便りミニ」の発行を行い、市民との意見交換を積極的に行っている。また、議員の一般質問の内容をSDGs(持続可能な開発目標)17のゴールで分類して掲載しており、市民へのサービスはもとより各議員の質問への取組度が分かる。

通年議会としている為(会期11月1日から翌年10月31日)、各常任委員会の回数も多く、市民への聞き取り調査も積極的に行っている事が素晴らしい。議会の市に対する政策提言強化に繋がっており大いに参考となった。また、常任委員会では委員会代表質問を導入しており、当該委員会に課せられた諸問題の中で、解決すべき問題の意思統一(全会一致)し執行部へ質問している。この事が議会からの政策提言に結びついていると感じた。

(5) 視察の様子



会長あいさつ



浜田市議会説明



議員及び職員による歓迎



議場にて